

翠風園 ひかり通信

Vol. 6



●発行月： 平成22年12月
●制作・発行： 社会福祉法人 正瑛会
デイサービスセンター翠風園
ヘルパーステーション翠風園
グループホーム 翠風園
理事長 野水 清志

●所在地： 〒950-1236
新潟市南区高井東2丁目13番33号

●連絡先： 025-362-7600

●ホームページ： <http://www.suifuen.jp/>



ご挨拶

デイサービスセンター
生活相談員 佐瀬 友子



早いもので、デイサービスセンター翠風園も、十二月二日で開設満八年を迎え九年目に入りました。開設初日は、お一人のご利用でしたが、今では一日三十名近くの皆様のご利用下さるまでになりました。今日まで利用者の皆様、家族の皆様、地域の皆様、関係者の皆様より支え、育てて戴いて来た事を痛感し、深く感謝申し上げます。誠に有難うございます。

私は先日、翠風園の理事の方よりお話を聞く機会がありました。

その中でもとても衝撃的だったのが「食べ物を頂くということは食材、自然、動物等の命を頂くということです。食べ物を頂く時には、食材となり命を提供して下さったものが喜ぶ様な生き方を自分自身がすることです。それが食べ物を頂く者の責任ですよ」というお言葉でした。このお話を聞き、目が覚める思いでした。私は二人の幼い子供がおり、ご飯を食べる時には「いただきます」と言うように教えていますが、命を頂く者の責任という事まで考えたことはありませんでした。「いただきます」という一言にこんなにも深い意味があったのだと驚くと共に、本当に大切な事だと納得しました。また、利用者様が見せて下さる深い感謝の姿勢から、皆様はこういう事を知っておられたのだと思いました。地域が農家をされてきた方も多く、食べ物の大切さは勿論、大自然の偉大さも、身に染みておられるのだと感じました。

「いただきます」の一言に、自分の生き方を振り返り、食材達の喜んでくれる生き方を目指して参ります。戴くばかりではいけない、私も何か御返しせずにはいられない。この心が、翠風園の理念「報恩・感謝・奉仕」の精神だったと思いました。

私は、日々翠風園で本当に沢山の事を教えて戴ける幸せ者です。皆様の知恵も戴き、自分自身がその精神をしっかりと受け継ぐことをもってご恩返ししたいと思えます。これから益々成長して利用者様のお役に立てるよう努力して参ります。

火への感謝祭

デイサービスセンター
ヘルパーステーション
グループホーム

翠風園では毎年恒例の行事に「感謝祭」を行って参りましたが、今年は七月二十一日から二十七日まで「火への感謝祭」を行いました。

昨年は、新潟市で行われた「水と土の芸術祭」にちなみ「水と土への感謝祭」を行った後、「来年は是非、火への感謝祭をしたいですね」という提案がありました。これまで改めて感謝する事なく過ごして参りましたが、火もまた私達が生きて行く上で欠かせない大切なものでした。更に、火の燃料となる石油も石炭も、全て地球様から無償で提供して戴いている事への感謝に繋げたいと考えておりました。

今回も、利用者様、入居者様と共に、戴いてきた火の恩恵を振り返りながら、火への感謝の想いを深めて行きたいと考えていました。囲炉裏や釜戸や、地底に流れるマグマの写真等を用意して、聞き取りを始めました。

ある利用者様は「次は、火の感謝だね・・。すぐには思いつかないから、婆ちゃんの宿題として考えてみようかね・・。」と言って下さいました。

そして、感謝祭当日は、火の画像を集めてスライドの上映をし、デイサービスの利用者様、グループホームの入居者様、さらに職員がそれぞれに、火への感謝の想いを発表しました。その中でも、特に印象に残ったお言葉を紹介致します。

利用者のA様

「火と水が無かったら生きていられません。何をするにも先ず火と水です」

利用者のB様

「昔は火を起こした後、燃やした木は炭として使用し、炭は灰として使用しました。有り難く、最後まで使わせて戴いたものです」

利用者のC様

「何でもそうですが、使いようによって善にも悪にもなります。特に火は注意して使わなければならないものです」



利用者様お一人おひとりから、火への感謝の想いを発表して戴きました。素晴らしいお言葉ばかりです。



火への感謝祭の会場風景です。火のイメージで演出しました。

利用者のD様

「子供の頃、火は危ないから触らせてもらえませんでした。火ほど怖いものはありません。火は怖さを教えてくれる大切なものです」

利用者のE様

「火は日常で欠かせないものであり、とても大切です。また、間違って使用する
と、とても怖い事を教えてくれます。色々な事を教えてくれる火に感謝です」

入居者のF様

「何年も天ぷら屋をしていました。火のお蔭で、美味しい天ぷらを揚げ、大勢の
人に食べて喜んでももらいました。思い出すと胸がいっぱいになります。火に感謝
致します」

入居者のG様

「大事な火は、私達の命であります」

また、ある男性の利用者様は「今は金の世の中、俺らの時代は苦勞する世の中。
火に感謝するのは良いことだね。まず一言で言ったら、火がなかったら何も出来な
い、それを考えれば有り難いばかり。こういう事（感謝祭）をすると皆が喜ぶ。
この人（利用者様）はそういう人ばかりだよ」と話して下さいました。毎年テー
マを設けて続けてきた感謝祭を、利用者様も喜んで下さっているのだと、嬉しい気
持ちでいっぱいになりました。

火というと、まず日常生活からの恩恵を思い浮かべる方が多かったのですが、
一昨年に「地球様への感謝祭」を行った事で、「ああ、そうだった。火の大本は地
球様だったんだよね。我々は地球様から戴いてばかりだ」と、パツと応えて下さい
ました。

また行事後、利用者様から「当たり前だと思っていた中に沢山の感謝がある事を、
この歳になって初めて教えてもらいました。本当に有り難かった」と感想を戴きま
した。



職員で手作りをしたスライド上映です。利用者様は、職員のナレー
ションを聞きながら、様々な「火」の映像をご覧になりました。

炎をイメージした短冊を
手作りの篝火^{かがりび}に飾りました。

今回、「火への感謝祭」にヘルパーステーションの職員も参加させて戴きました。ヘルパーの利用者様と一緒に行事はできないので、何軒かのお宅でお話を伺ってみるようになりました。

ヘルパー利用者のA様

「私が嫁に来た頃はね、風呂の水は堀から何回も何回もかさねて運んだもんだ。だから村で変わりばんこに風呂をたてて、『今日はうちに入りに来てくださっしやれ』と言うて風呂使いに行くんだよ。そこで甘酒やこうこ(たぐあん)(沢庵の事)を振舞って、嫁は風呂の火炊きね、忙しかったよ。今は本当に便利になったねー。火に感謝したことなんて無かったけど、火がなかったら生きていけないね。感謝しねばだめだね。ありがとう。感謝が大事だね」

ヘルパー利用者のB様

「うちは貧しかったから、炭も貴重で、薪でご飯を焚いた後の残り火で手を温めたもんだ。冬場は足が冷たくなって眠られないから、子供らは釜戸の前に集まって足を温めてから、布団にもぐって、寝たわね。白いご飯は減多に食べられないから急いでいっぱい食べようとするのと怒られるし、菜っ葉が入っていたり他のものが入っているのが普通だった。隣のうちも向かいのうちにそうだった。それから比べると今は、極楽だわね。極楽長者だわね」

利用者様が子供の頃、一昔前は全然違ったとお話して下さいました。

私達が生きて来た頃から三十年程しか変わらないのに、ドラマの中の「おしん」の様に感じました。急激な時代の進歩は私達の生活をとて豊かにしてくれて一面、大切なものを大切に気付くことも無く、当たり前になっちゃった感覚に、驚きと衝撃を受けました。利用者様のお言葉は、楽をして何でもできる現代の、傲慢になった私達の心に杭を打ち込んで下さった様に感じました。火だけでなく水や空気、お日様や大地、身の回りのあらゆるものに心を向け、感謝しながら使わせて戴こうと改めて思いました。

「極楽だわね。極楽長者だわね」この言葉が今でも胸に響きます。



ヘルパー利用者様からもお話が出ました昔のお風呂や釜戸を、当日の「火への感謝祭」でのスライド上映で流しました。



ヘルパー利用者様のお宅でお話を伺っている風景です。終始笑顔でお話し下さいました。

火への感謝の言葉

ヘルパーステーション訪問介護員 眞保 マサ子

この度、「火への感謝祭」を行うに当たり、火への感謝を考える機会を戴きました。火をイメージすると、めらめらと燃え上がる炎が目に見えびます。

・パチパチッと火の粉を飛ばし、立ち昇る塞の神の火
・夜空に打ち上げられた三尺玉の光の帯の先に開く、色取り取りの花火

・磯の香りと共に串に刺されて、こんがり焼けた魚の真ん中にはカッカッと燃え盛る真っ赤な炭火

昔から私達の暮らしに深く関わり、楽しい思い出の一ページには、幾つもの火の存在がありました。考えてみると、火は生活に無くてはならないものであり、火を使わない日は、一日たりともあり得ません。

・ご飯を炊き、好きなおかずを作り、朝昼晩と三度の食事を頂く

・お茶やコーヒーを飲みながら、時には甘いケーキで幸せな気分

・一日の終わりには、ゆつくりとお風呂に入り心身の疲れを癒す

・寒ければ暖房、暑ければ冷房と、どんな厳しい天候でも、部屋の中は、いつも快適

このように、私達の身の回りは、豊かな文明のお蔭で、いつでも安全に簡単に火を使うことが出来るようになっていきます。でも、もし火がなかったら・・・私達の暮らしはどうなっていたでしょうか。

それを思うと、当たり前のように火を使っていながら、その恩恵に少しも気付いていませんでした。恵まれた環境で暮らせることが、どんなに有り難いことか、感謝がありませんでした。

考えてみれば、火の燃料はガスや石油、石炭などです。これらの資源は、何億年もの長い間、大地の奥深くに蓄積され育まれてきたものでした。

火に限らず、水や空気も、太陽の光も。そして雨や風、森や草花も無くてはならない大切なものでした。この地球上の生きとし生けるもの全てが、大自らの営みの中で、調和し共存しながら育まれていることに思いを向ければ、その偉大さに感動します。

こうして「火への感謝祭」に参加させていただき、今まで当たり前の事として見落としていた、大切なことに改めて気付く事ができました。翠風園の理念は「報恩・感謝・奉仕」ですが、そのお手本は大自然の中に厳然とあったのだと、ようやく実感することができました。

それと同時に、「火への感謝祭」で感じた火の偉大さに習い、火の恩恵をただ頂戴するばかりではなく、私も自分の中に炎をともし、訪問する一人ひとりの利用者様に、少しでも希望を届けられるヘルパーになりたいと、強く思いました。

心に残った出来事

高井東自治会ふるさと祭りにて



真夏の日差しが照り返す暑い中、地域の子供たちが山車を引っ張って、
元気いっぱいの姿を披露してくれました！！

今年の八月七日・八日は、翠風園のある高井東自治会の、二十七回目になる「ふるさと祭り」でした。

翠風園が出来てから暫くして、毎年夏祭りになると子供みこしか山車^{だし}のどちらかが、翠風園に回って下さるようになりました。いつもはどちらか片方だったのですが、昨年から山車も子供みこしも両方来て下さるようになり、お祭りの係の方々と、子供に伴う保護者の方も加わって、大変な賑わいとなりました。

昨年は次から次と現れる人の波に驚きましたが、驚きからやがて胸が熱くなり、涙がこみ上げました。翠風園が出来るまで、国道沿いの千五百坪もの土地が長い間、草ぼうぼうの荒地地で、鳥が巣を作り、虫が沢山住み着き、地域の方々の苦情の種だった事をお聞きしていました。そんな場所に出来る施設を、地域の方々はどんな想いで見ておられたのかと、心痛む事もありました。

でも今こうして、地域の多くの方々が翠風園を訪れて下さる事に、深い感謝の想いが湧き上がり、涙となって溢れました。

そして今年は、何と昨年を上回る人出となり、翠風園の敷地は人で埋まりました。推測では百二〇三十人だったのではないかと思います。そこにデイサービスの利用者様、グループホームの入居者様と職員で、大賑わいでした。

祭り行列は当初、連絡が来ていたよりかなり早く到着され、飲み物などはギリギリまで冷蔵庫に入れていたので、準備に大忙しとなりました。祭りの係の方が「すみません。ちよつと早く着いちゃって・・・」と仰ったので、「この暑い中、有り難う御座います。早く着かれたなら次の予定まで、ここでゆっくり休んで行って下さい」と申し上げると「いやあー、そう言って戴けると本当に有り難いです」と、嬉しそうな表情で笑われました。

施設長 宇都宮 秀子



利用者の皆様は子供たちの元気な姿を、笑顔を浮かべながら
温かい眼差しでご覧になっていました！！

小学生の子供みこしは大人の笛の音と共に、利用者様の前でみこしを回して見せ、山車は車上で小学生の高学年の子供達が太鼓と笛の祭囃子を披露して下さいました。そして保育園や小学校低学年の子供達は、親御さんと一緒に山車の紐を引きながらついて歩きます。子供達のパワーは凄くて、利用者様を瞬く間に童心に返らせました。利用者様には、用意していた飴を子供達に配って戴きました。

また小さな子供達のお母様が、職員の手の足りないところ、次々と飲み物の準備を手伝って下さり、その手際の良さに感心し、とても有り難く思いました。

広い翠風園の敷地の中で、通る車の心配もなく、大人も子供も暑さをしのいで、ひと時の休息をとられている姿に、私は更に、幾つもの有り難さがこみ上げました。

広い敷地がある有り難さ。翠風園に来て下さる方々の有り難さ。子供達を歓迎して下さる利用者様の有り難さ。とても暑い中で、子供達にホースからシャワーで水をかけましたが、キャーキャーと大喜びし、その豊かな水の有り難さ。暑いからこそ出来る、この暑さの有り難さ。そして、子供達に地域の伝統・文化を繋いで下さる方々の有り難さなど、語り尽くせぬ感謝の想いで満たされました。

そして最後にお祭りの係の方が「今日は沢山用意して下さいって有り難う御座います。これからも共に地域での共存共栄という事で、宜しくお願いします！」と威勢良く挨拶をして行かれました。

「地域での共存共栄」という言葉に、私はまたグッと来て「翠風園を仲間に入れて戴いて、本当に有り難う御座います。どうぞ毎年、翠風園に寄って下さい」と、それ以上言葉になりませんでした。「共に存在し共に栄える」この言葉に込められた意味を胸にしっかり刻み、この地域で本当に皆様のお役に立つ施設として成長したいと、心から思いました。

地域の皆様、これからも宜しくお願い致します。



オリジナルいろはカルタ

現在、デイサービスセンター翠風園では、「いろはカルタ」を、利用者の皆様と一緒に制作しています。その過程をここで、紹介させて戴きます。

元々使用していた市販の「いろはカルタ」は、字が小さくて利用者様から見え難いという話が出ていました。そこで、この機会に大きくて見やすい翠風園のオリジナルカルタを作成してみようと、職員から声があがりました。

まずはカルタの読み札を決める所から始まりました。職員に読み札を募集したり、利用者様にもお聞きしながら考えていました。

すると或る日、ある利用者様がそっと一枚の紙を職員に渡して下さいました。そこには読み札の言葉が、手書きでビッシリと書かれてあったのです。「考えていたら楽しくて・・・」と仰って下さり、すぐ読ませて戴くと、愛情たっぷりの言葉の数々に感激してしまいました。

ここで、その読み札の文章を掲載させて戴きたいと思います。

あ 明るい春の日のひかり
い いつも優しい職員さん
う られしい園のひな祭り
え 笑顔大事に暮らそうよ
お 折り紙、塗り絵、歌、体操
か 勝った、負けたとゲームする
き きれいで広い園に来て
く 苦労話も過去のもの
け 今朝もおはよう 宜しくね
こ こけたら大変 骨折よ
さ 三時のおやつは 何だろう
し しっかり食べる 昼ごはん
す 翠風園の芝桜
せ せっせとお花の世話をする
そ そうした人々の真心よ
た 風は上空に舞い上がり
ち ちようちよ飛び交う 菜の花畑
つ つまらぬ愚痴は言うまいと
て 天しる 地しる カルタ取り
と 歳を忘れて 手を伸ばす
な 流す涙は 嬉し泣き
に 似た物夫婦 前後ろ



色は利用者様に塗って戴きました！



ぬ 抜き足 差し足 忍び足
 ね ねんねの孫の 顔見れば
 の のびのび育てと 祈るのみ
 は 花見のお手紙 もらったよ
 ひ 日陰涼しい ぶどう狩り
 ふ 風呂は菖蒲湯 冬至のゆず湯
 へ 下手な横好き 俳句を詠んで
 ほ ほんに暖か 園の風呂
 ま 真面目がとりえの堅物も
 み 民謡踊った日もあった
 む 昔はみんな若かった
 め 眼鏡をかけて 歳も取る
 も 桃の花咲く 桃源郷
 や 柔らかい苺は 甘くて赤い
 ゆ ゆで卵はつると角がない
 よ 嫁に感謝の有り難う
 ら ラジオは心の宝物
 り リハビリに皆 手足を動かそう
 る 類は友呼ぶ 朗らかに
 れ 連絡帳も 厚くなり
 ろ 論より証拠 若返る
 わ 笑うかどには 翠風園



人柄が滲み出るような絵を描く、
職員の鈴木さんです

それから、利用者様が考えて下さった読み札をもとに、絵札を作成する事になりました。絵の得意な職員の手で、心温まる様な素敵な絵が完成し、利用者様が「これは、芝桜だね。何色にする?」「この言葉、誰が考えたの? いいこと言うね」と会話しながら塗って下さいました。

もう少しで色塗りも完成です。来年の新春に間に合う様に、もうひと頑張りです!



仕事は楽しい

グループホーム庶務 宇都宮 由雄

私は二年半前に一旦退職してから、今後どのように生きればよいのかと考えていたところ、元同僚の方から「また一緒に働こうよ」と声を掛けて戴き、それが有り難くて、また翠風園に戻ってまいりました。今は入居者様が楽しい毎日を過ごせるように、そして現場の介護職員の方々が動きやすいように環境整備に努めています。施設長、両ユニットリーダーが緊密に連絡をし相談しながら物事を進めておられ、職員同士も仲がよく向上心が旺盛で暖かみのある人ばかりで、非常に働きやすい環境であることに感謝しています。私も介護されるのであれば翠風園でと思っています。仕事に当たりましては、自分を生かすこと、自分を限らないこと、自分の知っていること・出来ることは高が知^{たか}れていますので人から習い、出来ることを広げていくよう心掛けています。入居者様への礼儀として、手を後ろに組むのは横柄に見えると聞きましたので前に組むこと、「ご苦勞様」は目下の人に使う言葉だそうですので「お疲れ様」と言うこと、立ち止まって挨拶することを心掛けています。翠風園で過ごす一日が愛おしく感じるこの頃です。

グループホームで只一人の男性入居者様でいらっしゃるK様と接する機会が多いのですが、「何か私に出来ることがあったら何でもしますので、声を掛けて下さい」と言っておきますので、玄関の戸の乾拭きとマットのごみ落としを手伝って戴いています。

そして、ご本人から字が上手になりたいとご希望があり、また娘様より「以前日記を書いていた、よく読書をしていた」とお聞きしました。そこで昨年の十月の半ば頃からボールペン字の練習、日記をつけること、『声に出して読みたい日本語』の中から選んで三十回位を目安に音読することをして戴いています。音読はこれまでに論語、五輪書、雨にも負けず、走れメロス、枕草子などをしてきました。K様が次にどの様な時代にどんな所に生まれてこられるかわかりませんが、今生はこの日本に生まれ日本を支えてこられた先輩として敬い、私は国語が好きですので、国語を通して自分のできる精一杯のものを提供させて頂いて戴こうと思っています。



「掃除をすると綺麗になるから気持ちがいいよ」と毎朝お手伝いをして下さいます。夕食前になると、K様のお部屋から音読をされている声が聞こえてきます。

今年の九月に敬老会を行いました。その際、全職員が敬老の日をお祝いして入居者様、利用者様へ感謝の言葉を書かせて戴きました。今回は、宇都宮由雄さんの文章を紹介させて戴きます。

敬老の日 感謝の言葉 宇都宮 由雄

本日は敬老の日を迎えられ、心からお祝い申し上げます。

私の父は大正十三年生まれで二年前に亡くなり、母は大正十四年生まれで今は寝たきりの状態です。皆様と同じような時代を生きてきました。私は親元を離れて三十年以上経ち、その間ほとんど親の傍にはいませんでした。そして、これまで大して親孝行できませんでした。親と同じ時代を生きられた皆様を親と思って、親にしたかったことの一つでもお世話できればと日々接しています。

「火への感謝祭」のスライドの中に、火の周りには人が集まるというのがありました。親は火のようなものだと思います。時には厳しく叱ってくれ、時には暖かく包んでくれました。そして常に守ってくれました。お盆や正月に、何十キロの渋滞をしながらも帰省するのは、その渋滞の行き着く先に、自分を真剣に育ててくれたあの暖かい父や母が待っていてくれるからだと思います。

親の周りに子や孫が集まり、またの再会を楽しみに戻って行きます。毎年繰り返されることです。

皆様も子供さんやお孫さんを厳しさと暖かさで守り、包んでこられたと思います。そのように育てられた子供は、またその子をその様に育てます。人は国の宝と言います。愛情深く育てられた子供は家族を守り、地域を守り、会社を守り、国を守ります。そうやって国は続いていくのだと思います。

翠風園にご縁のあった皆様は、今私達職員を育てて下さっています。私達は皆様をお世話させて頂きながら、皆様から様々な事を教わっています。有り難うございます。今は体が思うように動かないからといって、決して悲観しないで下さい。私は皆様から教わったことを身に付けて、地域や会社や国の宝になれるよう努力致しますので、今後ともよろしくお願い致します。

天気の良い朝は、散歩に出掛けます。

「Kさん、今日は少し遠くまで歩きますか」
「そうだね。一緒に行ってみようか」と、お二人の楽しそうな会話が聞こえてきます。

散歩されている様子を拝見すると、見ている方が微笑ましくなり、一枚撮らせて戴きました。

【追伸】その日、K様は日記に「今日はカメラマンが来て、写真を沢山撮った」と書いて下さいました。



職員紹介

デイサービスセンター 家塚滋子

いつも笑顔で生き
生きしています



デイサービスセンターで働かせて戴いて四年目に入りました。私は主にお風呂を担当させて戴いています。利用者様との会話を大切にして、お一人おひとりの体調に合わせながら、ゆったりと気持ち良く入浴して戴ける様に心掛けています。

利用者様の温かいお言葉や先輩方の親切なご指導があったからこそ、ここまでやって来れました。これからも感謝の気持ちを忘れずに、毎日仕事に励んで行きたいと思っています。

ヘルパーステーション 塩原美代子

ヘルパーステーションで働かせて戴き六年が過ぎようとしています。

私は大病をして約一年間も休職させて戴きましたが、復帰してから仲間のみんなや利用者様からも温かい声を掛けて戴きました。「有り難う。また来てね。気を付けて帰ってね・・・」と送って下さり、私も感謝の気持ちでいっぱいになります。

利用者様がお家で安心して穏やかに過ごされる様に、精一杯お手伝いさせて戴きたいと思っています。

柔らかな物腰で
応対します



グループホーム萌木 小林令子

熱いハートで周り
を明るくします



入居者様が穏やかに楽しく過ごして戴けるよう心掛けていますが、入居者様とお話をする、私の方が穏やかな気持ちにさせて戴いている事に気付き、沢山の「有り難う御座います」でお返しできたらと思っています。

